

教科等研究会（小学校道德部会）

令和3年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めるための
多様な指導方法と評価の工夫

2 研究経過

第1回			第2回		
期日 6月29日	人数 29名	場所 龍野小学校	期日 10月8日	場所 七滝中央小学校	授業者 石原愛教諭
第3回			第4回		
期日 12月3日	場所 嘉島西小学校	授業者 西村恭平教諭	期日 1月25日	場所 龍野小学校	授業者 永野秀幸教諭 岩永光央教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

小学校新学習指導要領における道德科の目標から、児童一人一人が道德的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、道德性を養っていけるような道德科の指導を工夫することが重要だと捉えた。また、児童が道德的価値についての理解を深め、よりよく生きようとする気持ちを高めることが、「分かる」「楽しい」道德の授業につながると考えた。

◎「分かる」道德の授業とは・・・

価値理解、人間理解、他者理解、自己理解を深める授業

＝道德的価値を理解し、自分の生き方についての考えを深める授業

※①ねらいとする道德的価値が大切であることが分かる（価値理解）

②大切ではあるが道德的価値に根ざした行為は容易ではないことが分かる（人間理解）

③道德的価値にかかわる見方・考え方は人によって様々であることが分かる（他者理解）

◎「楽しい」道德の授業とは・・・

子どもが、「考えたい、聞きたい、話したい」と思える授業

＝道德的価値を、自分とのかかわりで考える授業

本研究では、学習指導要領解説特別の教科 道德編に示された指導方法の工夫の中からねらいや児童の実態、資料や学習過程に応じて、最も適切な指導方法を選択して指導案に明記し、授業の中で工夫し生かすようにした。

◇道德の時間に生かす7つの指導方法の工夫

- ① 資料提示；教師による読み聞かせ（紙芝居、ペーパーサート等）、ビデオ映像等
- ② 発問；児童の意識の流れに沿った発問、考える必然性や切実感のある発問等
- ③ 話し合い；意図的指名、座席配置の工夫、ペアやグループ討議などの工夫等
- ④ 書く活動；吹き出しを付けたワークシートの工夫等
- ⑤ 表現活動；役割演技、動作化等
- ⑥ 板書；順接的な板書、構造的な板書、意見の違いを類型化した板書等
- ⑦ 説話；日常の話題や学級の出来事を生かした内容等

(2) 成果と課題

【成果】

- 今年度も、事前研での教材分析や授業展開の検討・会員による先行授業を積極的に行い、授業研究会を中心にした研究を推進することができた。先行授業後に、授業の流れや児童の反応について情報交換を行うことで、学習構想案を練り上げることができた。
- 導入では、写真や事前アンケート等を用いることで、価値の方向付けや課題意識を明確にもたせることができた。
- 終末では、手紙へのお返事を書く中でこれからの生活を考えさせたり、視点を示して自己を見つめさせたりして、発達段階に応じた振り返りの工夫を行った。

- 講話を通して、「児童の心が動く道徳科の授業」や「児童の心の活力を育む授業」の在り方について学ぶことができた。

【課題】

- 個人の考えを学級全体で共有し、児童が主体的に自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めるための手立て等について、今後もさらに研究していきたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

主題名 広い心 (B (1 1) 相互理解、寛容)

教材名 「折れたタワー」 出典「生きる力5」 (日本文教出版)

指導者 教諭 西村 恭平

本授業では、以下のような指導の工夫 (展開の工夫) を行った。

- ・ 導入では、児童のアンケート結果を提示し、課題意識を明確に持てるようにする。
- ・ 教材文を読む前に、挿絵を見せ、主人公の表情からどんな場面なのかを想像させることで、児童の興味関心を高める。
- ・ ハート図を活用することで、「許す心」「許さない心」の両面から主人公の気持ちを考えることができるようにし、児童が互いの考えを伝え合う手立てとする。
- ・ 展開後段に、主人公に許してもらった登場人物の行動や気持ちを考えることで、道徳的価値をより高めることができるようにする。
- ・ 終末で、教師が説話をした後に、「これまで」「これから」「考えたこと」の3つの視点の中から児童に選択させることで、児童が主体的に自己を見つめることができるようにする。

(2) 学習構想案

第5学年2組 道徳科 学習構想案

日 時 令和3年12月3日 (火) 第5校時
場 所 5年2組教室

1 主題についての構想

主題名	広い心 (内容項目B (1 1) 相互理解、寛容)	
ねらいと教材名	(1) ねらい ひろしがのりおを許した時の気持ちを多面的・多角的に考えることを通して、自分を含めた誰もが失敗することがあると理解し、相手の立場になって、広い心で相手を受け止め許そうとする心情を育てる。 (2) 教材名 「折れたタワー」 出典「生きる力5」	
評価の視点	評価の視点1	評価の視点2
	ひろしがのりおを許した時の気持ちを、多面的・多角的に考えワークシートに書いている。	「許す心」や「許さない心」について、本時や自分の経験を振り返りながら考え今後の生き方につなげようとしている。
目指す児童の姿		
自分を含めた誰もが失敗することがあると理解し、相手の立場になって、広い心で相手を受け止め許そうとする児童。		
主題に迫る学習課題 (本時)		本主題ではたらかせる見方・考え方
「許す心」「許さない心」の両方がある時、どのような心があると許すことができるだろうか。		自分と重ねて考えたり、友達の考えに触れたりしながら、広い心で相手を受け止め許すことについて考えを深めること。
内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等との関連的指導		
特別活動等	道徳科	日常的な活動等
委員会活動 よりよい学校を作り上げるために、みんなで考えを出し合う場面等において、相手の立場や意見を尊重する。 (価値項目：相互理解)	価値：相互理解、寛容 教材：「折れたタワー」 ひろしがのりおを許した時の気持ちを多面的・多角的に考えることを通して、自分を含めた誰もが失敗することがあると理解し、相手の立場になって、広い心で相手を受け止め許そうとする心情を育てる。	人権学習 相手の立場になって、広い心で自分とは異なる意見や立場を受け入れ、相手を尊重していく。
学級活動 皆が楽しめるクリスマスパーティーに向けての準備において、相手の立場や意見を尊重しながら計画をする。 (価値項目：相互理解)	価値：相互理解、寛容 教材：「すれちがい」	帰りの会 1日の振り返りの中で、今回の主題である「広い心」に関連する出来事を学級で共有していく。

学習指導要領における該当箇所（ねらいや指導内容についての教師の捉え方）

「寛容」とは、広い心で自分とは異なる意見や立場を受け入れ、相手を尊重することである。「寛容」であることは、広い心で相手を許すことにつながる。これは自分を含めた誰もが失敗や過ちを犯すことがあると自覚しているからであり、同時に自分に対して謙虚であるからだ。この「寛容」さは、多種多様な人間が相互に認め合い理解し合いながら高め合う人間関係の構築に欠かせない。

日常生活の中では、広い心で相手を許すことが大切だと分かっているにもかかわらず、そうできないことがある。それは、私たち人間の多くが、自分の立場を守るために、他人の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分とは異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さを持っているからである。

そこで今回は、ひろしがのりおを許した時の気持ちを多面的・多角的に考えることを通して、自分を含めた誰もが失敗することを理解させながら、相手の立場になって広い心で相手を受け止め許そうとする心情を育てたい。

本主題における系統

<p>小学校第3学年及び4学年 内容項目B（10） （相互理解、寛容） （3年） 「相手とわかり合って」 ・心をしずめて （4年） 「相手のことを考えて」 ・ちこく 「相手の意見を聞く」 ・にぎりしめたいね</p>	<p>小学校第5学年及び6学年 内容項目B（11） （相互理解、寛容） （5年） 「広い心」 ・折れたタワー 「相手の立場が大切に」 ・すれちがい （6年） 「相手を理解する心」 ・ぼくだって 「広く受け入れる心」 ・ブランコ乗りとピエロ</p>	<p>中学校 内容項目B（9） （相互理解、寛容） （1年）「相互理解、寛容」 ・いじめに当たるのはどれだろう ・落語が教えてくれること （2年）「相互理解、寛容」 ・注文をまちがえる料理店 ・遠足で学んだこと （3年）「相互理解、寛容」 ・しあわせ</p>
---	---	---

児童の実態（男子17名、女子24名、計41名うち特別支援学級4名）

本学級の児童は1学期と比べると、自分の考えを持ちたりその考えを相手に伝えたりする場面が多く見られるようになってきた。ただそれと同時に、自分の立場や考えが近い者同士が集まったり、自分とは異なる立場や考えの相手を強く非難したりするような場面が見られる。また、相手の過ちを許すことができず、逆に相手を傷付けてしまう児童も多い。

11月実施のアンケートでは、【あなたはこれまで誰かを許すことができなかった経験がありますか？】の質問に対して、はいと答えた児童は41人中35人である。その内容は、「一緒に遊びたかったのに、何度も何度も断られたことを今も少し許せない気持ちがある。」「2年生の時自分の持ち物で勝手に遊ばれ、その物を壊され今も許せない」「友達が家に遊びに来た時にペットのチャボをいじめたことが絶対に許せない」「許せないことはあるけど、書けない」「秘密をバラされて許せないことがあったけど、謝ってくれたからもう許している」等である。また【友達と良い関係を作るために[許すこと]は大切だと思いますか？】に対しては、はいと答えた児童が33名、どちらかと言えばはいと答えた児童が7名であり、97%が肯定的な回答をしている。どちらかと言えばいいと答えている児童が1名、いいと答えた児童は0名である。つまり相手を許すことは、良い関係の構築に大切なことだと考えているが、そうできなかった経験を持つ児童が多くいることが分かる。実際に「許した経験」や「許してもらった経験」が友達との関係を好転させたり、自分の気持ちがスッキリしたりすると感じている児童も多い。

そこで今回は、ひろしがのりおを許した時の気持ちを多面的・多角的に考えることを通して、自分を含めた誰もが失敗することがあることを理解させながら、相手の立場になって広い心で相手を受け止め許そうとする心情を育てたい。

教材の価値

ストーリーの内容が比較的理解しやすく、似たような体験をした児童も多いため、自分と重ねやすい点がこの教材の魅力である。また、時間を掛けて作り上げたタワーをわざとではないが壊されてしまった時に、「わざと落としたんじゃないだろ。しかたないさ。」と言ったひろしの気持ちには「許す」「許さない」の両方があることをおさえ、許そうと悩むひろしの葛藤に触れながら考えることができる。本時では「許す心」「許さない心」について、多面的・多角的考えたり、自分を含めた誰もが失敗することがあることを理解させたりしながら、相手の立場になって広い心で相手を受け止め許すことができる寛容の精神や主題である広い心に繋げていきたい。

2 指導に当たっての留意点

- 導入において、アンケート結果を示すことで、自分やクラスの友達が「許すことは大切だと分かっているが、そうできないことがある現状」にあると気付かせ、本時の学習にスムーズにつなげる。
- 展開前半では、謝っても許してもらえなかったひろしの気持ちを考えることを通して、自分の失敗を必要以上に責められてしまった時の気持ちに気付かせる。そして展開の2（2）において「許さない」側の意見を出しやすくしたり、葛藤の場面を考えやすくしたりする。
- 展開後半では、のりおがとった行動を予想させることで、「許すこと」の良さに気付かせながら価値を高めていく。
- 終末では、「これまで」「これから」「考えたこと」の3つを設定し、自分で選ばせることで自分の考えを引き出していく。
- 発表することや書くことを極端に苦手としている児童がいるので、補助発問や個別の支援を行うことで学級の全員が本時のねらいを達成できるようにする。

3 本時の学習

(1) ねらい

ひろしがのりおを許した時の気持ちを多面的・多角的に考えることを通して、自分を含めた誰もが失敗することがあると理解し、相手の立場になって、広い心で相手を受け止め許そうとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (●主な発問・指示 ○予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)	準備物
導入	5分	<p>1 アンケート結果を示す。 ●前にとったアンケートの結果を見てみましょう。 ○許すことが大切ってみんな思っている ○でも許すことができなかったこともあるな</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「許す心」や「許さない心」について考えよう。</div>	<p>・アンケート結果を示し「許すことは大切だと分かっているが、そうできない現状」があることに気付かせ、本時の学習につなげる。</p> 	アンケート結果
展開	30分	<p>2 教材を聞き、考える。</p> <p>(1) 強く責められた時のひろしの気持を考える。 ●のりおから強く責められた時の、ひろしはどんな気持ちだったのだろう。 ○そんなに強く言わなくていいのに ○マスクを忘れただけなのに ○謝らないと良かった</p> <p>(2) 「わざと落としたりしたんじゃないだろ。しかたないさ。」といったひろしの気持を考える。 ●「わざと落としたりしたんじゃないだろ。しかたないさ。」の時、ひろしはどんな気持ちだったのだろう？ ○のりおもわざとやったわけじゃない（許す） ○本当は許したくない（許さない）</p> <p>●「許す」「許さない」はどれくらいの割合かな？ ●「許す」「許さない」の気持ちを書いてみよう。 ○誰だって失敗するから許す ○わざとじゃなくても許せない</p> <p>(3) ひろしが許せたのはどんな気持ちがあったからなのかを考える。 ●最終的にひろしが許せたのは、どんな気持ち（心）があったからだろうか？ ○相手のことを考える心 ○誰でも失敗することはあるから許そうという心</p> 	<p>・ひろしが責められている挿絵を見せて、どんな場面なのかを少しだけ考えさせてから、教材を聞く。</p> <p>・朗読CDを使い、その間に板書をつくる。</p> <p>・(1) を考えることで、(2) の「許さない」側の意見を出しやすくしたり、葛藤の場面を考えやすくしたりする。</p> <p>・「許す」に発言が偏った時には、「がんばって作ったのにすぐ許せるかな」と補助発問をいれたり、(1) に戻ったりする。</p> <p>・ここで、「許す」「許さない」の両方があることをおさえておく。</p> <p>・ハートに線を引かせることで割合を示す。</p> <p>・グループでハートを見せながら自分の考えを伝えたり、聞いたりする。</p> <p>・「許さない」側から取り上げて板書する。</p> <p>・(2) で板書した「許す」気持ちに立ち返る。</p> <p>・主題である広い心にせまりたい。</p>	朗読CD 挿絵 学習シート
終末	10分	<p>3 この後、のりおがどんな行動をとるか予想し、のりお気持ちを考える。 ●この話の続きでのりおはどんな行動をとるだろう？ ○しっかりごめんと謝る ○何も言わないけど、反省した ○一緒に作るのを手伝った ●その行動にはのりおのどんな気持ちがあったのだろう？</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>5 「これまで」「これから」「考えたこと」から自分で選んで書く。 ●3つの中から自分で選んで今日の授業を振り返りましょう。</p>	<p>・許してもらったのりおの行動を予想し、その行動の背景にある気持ちを考えることで、「許す」ことの価値を高めていく。</p> <p>・「その行動には、のりおのどんな気持ちがあるのだろうか？」と切り返していく。</p> <p>・教師が許してもらって良かった経験について話す。</p> <p>・3つから自分で選ばせることで、意欲的に今日の授業を振り返ることにつなげたい。</p> <p>・許すことの良さ、許してもらった良さについて書いているものを取り上げることで、これからの生き方につなげたい。</p>	

【評価の視点1】 ひろしがのりおを許した時の気持ちを、多面的・多角的に考えワークシートに書いている。
(方法：発言・ワークシート)

【評価の視点2】 「許す心」や「許さない心」について、本時や自分の経験を振り返りながら考え、今後の生き方につなげようとしている。
(方法：発言・ワークシート)